

# 銚子ジオパーク市民の会 ニュース

第115号

2021年11月18日発行

発行責任 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL: <https://choshigeopark.com>



屏風ヶ浦 (銚子市)

## 勉強会「銚子の歴史〜田中玄蕃を通して〜」が 開催される

市民の会ニュース編集部

令和3年度の市民の会勉強会が表題のテーマで5月13日から10月7日まで3回に亘って勤労コミュニケーションセンターで行われました。講師は元銚子市立第一中学校長の伊勢崎翼氏です。

開催期日がコロナ感染拡大の時期に重なり、度重なる延期で、伊勢崎先生には大変ご迷惑をおかけしましたが、快く引き受け頂きました。緊急事態でお話をさせて頂きました。



講演中の伊勢崎氏

第3代玄蕃が1616年に撰津国西宮(兵庫県西宮市)の眞宜九郎右衛門の勧めで、たまり醤油の醸造を始めたのがヒゲタ醤油の創業になります。その後、1697年に5代玄蕃(繁貞)が濃口醤油を開発し、文化文政期(1804〜30年)に江戸で人気商品となりました。濃口醤油は、うどん、そば、江

戸前寿司、天ぷら、鰻の蒲焼きなど江戸料理・和食に欠かせない調味料として使われました。

そして、幕末のペリー来航時に、開国交渉でのおもてなしとして、日本橋料亭「百川」による会食が催され、贅を尽くした肴や本膳料理の味付けとして濃口醤油が使われたという。銚子発の濃口醤油が歴史的な政治の舞台にも登場し

たことになりました。また、NHK大河ドラマ「青天を衝け」の時代と重なる、水戸天狗党による銚子事変では、天狗党が銚子に逃げた諸生を八日市場まで追いつき返し金品を強奪したという、銚子が資金豊かな街で、戦略的に重要な価値を持つていた事が窺えます。

一方、幕末から明治にかけて、銚子では寺子屋や私塾がたたくさん設けられ、非常に教育が盛んであり、「良質の生活を送るには教育が必要」との意識があったとはいえ、これが現在、銚子に市銚、県銚、商業の3高校の設立、さらに千葉科学大学の設置に繋がったと思います。

### 勉強会「銚子の歴史〜田中玄蕃を通して〜」

講師 元銚子市立第一中学校長 伊勢崎翼氏

- 1回目 (5月13日) : 初代から8代田中玄蕃の時代、たまり醤油の醸造開始、濃口醤油の開発、海鹿島漁港の建設など
- 2回目 (6月24日) : 9代から11代田中玄蕃の時代、濃口醤油が育てた江戸の外食文化、水戸藩の戊辰戦争と銚子事変について
- 3回目 (10月7日) : 幕末から明治の銚子の教育、日本の近代医学発展に貢献した濱口梧陵と、漁港整備により銚子を発展させた濱口吉兵衛について

また、幕末期にコレラ感染症対策で医療機関への援助や医

学者の育成をされ、コレラから銚子を守ったヤマサ醤油の濱口梧陵。そして、「銚子の川口でんでんしのぎ」と言われた銚子湊を「大産都市銚子の躍進は漁港整備から」と明治期に今後の銚子の発展を見据えた、利根川河口エリアの運河大漁港の整備を成し遂げた濱口吉兵衛について詳しく紹介して頂きました。これにより、これらの偉人がより身近に感じる存在となると共に、銚子の誇りであると改めて感じさせられました。



玄蕃井戸